

MD&A (経営者による財政状態および経営成績の分析)

株式会社電通および連結子会社
2018年3月29日現在

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において、電通グループが判断したものであります。

当連結会計年度の経営成績の分析

収益および売上総利益

当連結会計年度における当社グループの収益は9,288億41百万円(前連結会計年度比10.8%増)、売上総利益は8,776億22百万円(前連結会計年度比11.2%増)となりました。

売上総利益のうち、国内事業は、ほぼ前連結会計年度並みの3,619億2百万円(前連結会計年度比0.4%減)となりました。

海外事業の売上総利益は5,160億52百万円(前連結会計年度比21.1%増)となりました。また、海外事業の売上総利益のオーガニック成長率は、0.4%となりました。地域別では、EMEAが3.1%、Americasが△1.5%、APACが△0.6%となりました。

販売費及び一般管理費、その他の収益、その他の費用および営業利益

当連結会計年度における当社グループの販売費及び一般管理費は、7,519億57百万円(前連結会計年度比14.0%増)となりました。

また、その他の収益は233億47百万円(前連結会計年度比40.7%増)、その他の費用は116億20百万円(前連結会計年度比44.1%増)となりました。

これらの結果、当連結会計年度における営業利益は1,373億92百万円(前連結会計年度比0.2%減)となりました。

持分法投資利益、金融損益および当期利益

当連結会計年度の持分法投資利益は42億22百万円(前連結会計年度比25.6%増)、金融収益から金融費用を減じた金融利益は80億48百万円となり、この結果、税引前利益は1,496億62百万円(前連結会計年度比12.6%増)となりました。

税引前利益から法人所得税費用を控除した当期利益のうち、親会社の所有者に帰属する当期利益は1,054億78百万円(前連結会計年度比26.3%増)となりました。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

資産、負債および資本

当連結会計年度末は、前連結会計年度末と比べ、主に営業債権及びその他の債権が増加したことから、資産合計で4,076億26百万円の増加となりました。一方、主に営業債務及びその他の債務や借入金が増加したことから、負債合計で2,394億53百万円の増加となりました。また、当期利益の計上等により、資本合計は1,681億73百万円の増加となりました。

キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、3,057億60百万円(前連結会計年度末2,424億10百万円)となりました。営業活動による収入および財務活動による収入が投資活動による支出を上回ったため、前連結会計年度末に比べ633億49百万円の増加となりました。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果により得た資金は、1,415億57百万円(前連結会計年度1,435億85百万円の収入)となりました。主に税引前利益の計上によるものです。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、855億31百万円(前連結会計年度1,561億61百万円の支出)となりました。主に子会社の取得による支出によるものです。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果により得た資金は、12億26百万円(前連結会計年度25億39百万円の収入)となりました。主に長期借入による収入が短期借入金の減少を上回ったことによるものです。